

動く世の中、視点を変えれば見えてくるものがある。ホンネで言いたいことがある。



瓦ばん！

平成20年9月20日発行 季刊

発行責任者：根っから地元派 ばん よしはる

ban-4@ares.eonet.ne.jp

第4号

皆さん、こんにちは。ばんよしはるです。

選挙の時だけお願いに来て、当選してからは全く何をやっているのか分からない、そうした皆さんの声を耳にする中で、私は少しでも政治不信を払拭するために「顔の見える町政」を今後とも目指して行きたいと考えています。

先日の新聞記事に国の借金が800兆円を超えたことがでていました。つい数年前まではまだ400兆円とか、500兆円というレベルでしたが、すでに倍近い800兆円を突破しております。もちろんこの数字は先進国の中でも最悪の水準です。国の借金の良し悪しには様々な考え方があると思いますが、いずれにしても、800兆円というのは普通の水準ではありません。

こうした状況のもと、いま国では借金減らしのために三位一体改革や平成の大合併など様々な地方制度をいじくっております。そして、その一方で補助金や交付金のカットに乗り出しています。その結果が地方財政の悪化につながり、場所によれば、財政破綻してしまうほどです。

つまり、真面目に財政改革に取り組む自治体では交付金や補助金がもらえず、正直なところ、努力して財政の健全化に努めれば努めるほど馬鹿をみるような仕組みになっているのです。

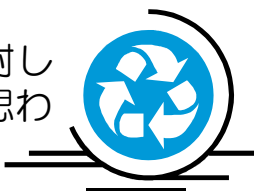
これからは、社会全般と同じように、努力した者が報われる国と地方の關係に改めていく必要があります。

家電リサイクルの矛盾

家電製品の約半分はリサイクルに、後の約半分はリサイクルせずに中古市場に出回っています。リサイクルにまわった物からは資源を回収するのですが、今の日本では、ほとんど家電製品を作っていない為、大半が捨てられている現状です。これをはたしてリサイクルというのでしょうか。

このままでは、消費者は4000円を業者に払うことに意味があるとは思われません。

このような、矛盾に対して皆さんはどのように思われますか。



議員提案条例について！

本来、政策本位の議会を目指すには、議員もよく勉強し、積極的に条例提案をしていく必要がありますが、実際には議員提案はごく僅かです。その背景には職員に比べ、手持ちの情報量が少なく、様々なハードルがあることが原因になっています。しかし、これからの時代を考えると、もっともっと政策的な議員提案条例を増やして行かなければなりません。そのためには、議員自らが勉強するとともに、皆さんの力をお借りしなければ、なかなか実現することはできません。皆さんのお力添えを宜しくお願いいたします。

